

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【浦和中】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

次年度に向けて
(3月)

年度末評価

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	調査結果分析(2月)	
思考・判断・表現	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)	
主体的に学習に取り組む態度	職員会議・校内研修等	結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査の国語・数学の自校結果より、「知識・技能」において、昨年度より5pt以上向上させる。	⇒ 各授業で工夫を凝らし、効果的な学習法を伝えたり、定期的に小テストを実施したりすることで、「知識・技能」の習得を図る。また、「Morning Skill-Up Unit」や放課後学習会、少人数指導をとおして、ひとり一人のニーズに対応していく。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の国語・数学の自校結果より、「思考・判断・表現」において、昨年度より5pt以上向上させる。	⇒ 教科等横断的な視野をもち、各教科において、1つの教科の知識だけでなく、他の教科で得た知識を用いて考える発問をすることできることで、思考力を育てる。そして論理的に説明・表現することができるよう研究、実践する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」という項目で、肯定的な回答90パーセントを上回る。	⇒ 「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させ、実際の問題に即し、自ら考え、探求することで、課題解決能力の向上を図る。そして、自分の考え方や意見を他の生徒に自信をもって伝えることができるよう指導する。

目標・策の設定
(4月)

全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	R5年度とR4年度の全国学力・学習状況調査の「知識・技能」の全国平均正答率と自校の結果を比較すると、国語+3.7pt、数学+5.8ptであった。英語のR5年度の自校と全国の平均正答率を比較すると+42.6ptであった。問題ごとの正答率もほとんどが90%を超えており、どの教科も高い水準にあると言える。
思考・判断・表現	R5年度とR4年度の全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」の全国平均正答率と自校の結果を比較すると国語+0.6pt、数学+2.8ptであった。英語のR5年度の自校と全国の平均正答率を比較すると+40.2ptであった。しかし、数学と英語において、自分の言葉で説明する問題に課題があることが分かった。各教科で学習した「知識・技能」を活用して、考えを表現する授業を展開していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は95.8%で目標値より、5.8%上回った。今後も生徒の創造性を育むような課題解決型の学習に取り組んでいきたい。

調査結果分析(7~8月)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査 <小3～中3>(1月)	
中1	
中2	
中3	

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)

	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒
思考・判断・表現	変更なし	⇒
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒

中間評価(9月)
目標・策の見直し